

## 蒲生干潟の植物④5



Fig.1 エリアBを南西側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアBで撮影



Fig.4 エリアDで撮影



Fig.5 エリアDで撮影



Fig.6 エリアFで撮影



蒲生全景・防潮堤より

調査日時：2025年3月18日（木）9:45～11:00，天気：晴れ

天気は良かったが、時折強い風があった。水はかなり引いた状態であった。定点観測では、枯れたハママツナが広範囲で流失していた。満潮および大雨の際に水が広範囲に流入したことが予想される (Fig. 1)。エリアAのヨシは、根元に新しい個体はまだ見られなかった。寒暖差が大きくこれから出てくると思われる (Fig. 2)。エリアBのハママツナは、新しい個体が出始めていた (Fig. 3)。エリアCのシオクグは、新しい個体が出始めていた。色が薄くまだ弱々しい (Fig. 4)。エリアC北側にマツが2個体あるのが確認された。手前の小さな個体が30cmほど、奥の大きな個体が70cmほどであった。今後の成長が期待される (Fig. 5)。エリアDでは多くのハマニンニクが生育している。根元には新しい葉が見えてきていた (Fig. 6)。新しい個体はまだ出てきていないのがほとんどであった。4月以降の調査に期待したい。また、マツの個体数が徐々に増えてきている。今後の個体数の変化にも注目したい。

(宮崎佳彦)